

# 古民家で歌おう！ 懐かしの 昭和メロディ

## 古民家で歌おう！ 懐かしの昭和メロディ

日時：2023年11月4日(土) 開場 13:00  
開演 13:30  
会場：増尾きつね山・伊藤家住宅  
八場無料・先着50人限定  
当日12時30分から整理券を配布します

アコースティックギターの伴奏で  
あの頃の歌を一緒に歌いましょう  
10世紀頃のペルシャが起源と伝わる  
打弦楽器、ハンマーダルシマーの  
“癒しの音色”もお楽しみください



文化庁登録有形文化財



会場には駐車場がありません。  
お車でのご来場はご遠慮ください

お問い合わせ：090-1056-6384 河野

11月4日(土曜日)地域の宝『きつね山・伊藤家住宅』  
の茅葺の母屋をお借りして、コンサートを行いました。

新柏在住の Zippy (ジッピー) の愛称でお馴染みの河野  
健次郎さんのアコースティックギターの伴奏と歌のリード、  
ハンマーダルシマー奏者の磯部さんの“癒しの音色”  
に合わせ参加者全員で歌いました。

当日は、3連休の中日で絶好の行楽日和でもあり、スタッフ一同は、参加者が少ないので  
はと気をもみましたが会場いっぱいの48名(男性16名、女性32名)の参加があり、ス  
タッフは会場の外からの参加です。



\* 木陰での受付



\* ご当主伊藤泰彦さん(手前)と河野さん、磯部さん

河野さんから、伊藤家住宅が国の登録文化財に指定された経緯などの説明のあとコンサートがスタート。

1曲目『岬めぐり(1974)』のあと、  
ご当主の伊藤泰彦さんの挨拶と伊藤家

### 古民家で歌おう！ 懐かしの昭和メロディ

- 1. いつでも夢を (1962)  
詞：渡辺 圭 曲：田 正  
星よりひそかに 雨よりやさしく  
あの唄はいつも 歌ってても  
声が聞こえる 楽しい唄に  
涙に濡れた この唄に  
唄っている お祈りもない  
いつでも夢を いつでも夢を  
星よりひそかに 雨よりやさしく  
あの唄はいつも 歌ってても  
～間奏～  
歩いて 癒しの夜更けも  
あの頃の唄は 流れる  
ずり落ちる この唄上げて  
きている歌の 懐かしさ  
～間奏～  
唄っている お祈りもない  
いつでも夢を いつでも夢を  
はかない涙を うれしい涙に  
あの唄はいつも 歌ってても  
あんな懐かえる歌で
- 2. 上を向いて歩こう (1961)  
詞・曲：大船 由・中村八  
上を向いて歩こう  
涙がこぼれないように  
思い出す 夏の夜 一人ぼっちの夜  
上を向いて歩こう  
にじんだ涙を拭き取って  
思い出す 夏の夜 一人ぼっちの夜  
唄は 雲の上に  
星は 空の上に  
上を向いて歩こう  
涙がこぼれないように  
泣きながら 歩く 一人ぼっちの夜  
～間奏～  
思い出す 秋の夜 一人ぼっちの夜  
恋しき影に  
恋しき月の影に  
上を向いて歩こう  
涙がこぼれないように  
泣きながら 歩く 一人ぼっちの夜  
一人ぼっちの夜  
一人ぼっちの夜
- 3. 思い出の唄 (1966)  
詞：島根 淳 曲：加瀬 繁  
君を見つけた この唄に  
一人たずみ 思い出す  
小栗色した 可愛らしい顔  
忘れはしない いままで  
水面走る 白い船  
深い瀬原 風になびかせ  
涙に向かって 叫んでみても  
もう帰らない あの夏の夜  
～間奏～  
思い出の唄 次なき唄が  
僕を連れて くるんだ  
このまま二人で 空の唄で  
飛んで行きたい 夜だった  
涙に向かって 叫んでみても  
もう帰らない あの夏の夜  
あの夏の夜  
あの夏の夜
- 4. かあさんの歌 (1966)  
詞・曲：藤田 聡  
かあさんは 涙なを流して  
手袋あんぐり  
木柵らしき ちやんぱたかろうて  
せつせつと ぶんぶん  
ふるまの 懐かしさを  
聞かせたおどろ  
かあさんは 涙なを流して  
一日むく  
おどろは 土間で 薫うち仕草  
おまえもかばれば  
歌唄の星は きれいな  
せめてうらぶらぶ
- 5. 今日までして明日から (1971)  
詞・曲：吉田 拓  
私は今日まで生きてきました  
時には難かしの力を借りて  
時には難かしの力を借りて  
私は今日まで生きてきました  
明日からもうして  
生きて行くだろうと  
私は今日まで生きてきました  
時には難かしの力を借りて  
時には難かしの力を借りて  
私は今日まで生きてきました  
明日からもうして  
生きて行くだろうと  
私は今日まで生きてきました  
時には難かしの力を借りて  
時には難かしの力を借りて  
私は今日まで生きてきました  
明日からもうして  
生きて行くだろうと  
私は 今日まで生きてきました  
時には 癒しの夜更けも  
あの頃の唄は 流れる  
ずり落ちる この唄上げて  
きている歌の 懐かしさ  
～間奏～  
歩いて 癒しの夜更けも  
あの頃の唄は 流れる  
ずり落ちる この唄上げて  
きている歌の 懐かしさ  
～間奏～  
唄っている お祈りもない  
いつでも夢を いつでも夢を  
はかない涙を うれしい涙に  
あの唄はいつも 歌ってても  
あんな懐かえる歌で





の歴史についてお話を伺いました。 曲は『思い出の渚』、『この広い野原いっぱい』、『いつでも夢を（1962）』、『上を向いて歩こう』と続き、曲の合間にそれぞれの歌の時代背景などの説明も。

『いつでも夢を（1962）』では、参加女性の一人が吉永小百合さん役で歌われました。



途中休憩を挟んで、後半です。

磯部さんから『ハンマーダルシマーは「ピアノの祖先」と称され、台形の木の箱に鉄の弦が張っており、ハンマーと呼ばれる木のバチで弦を叩いて音を出す楽器で、ピアノと同じ打弦楽器に分類される等の話を交え、童謡からアメリカやアイルランド民謡、そして谷村新司



さんの『昴』まで、癒しの音色で演奏していただきました。

『かあさんの歌 (1956)』でみんなの歌を再開し、『なごり雪』、『戦争を知らない子供たち』、『今日までそして明日から』、『翼をください』と続き、コンサートは定刻に終了しました。



来年も企画しますのでご期待ください。 スタッフ一同

### T. O 記

けれどそれにしたって  
どこでどう変わってしまおうか  
そですわからないうまま生きてゆく  
明日からのそんな私です

私は今日まで生きてきました  
私は今日まで生きてきました  
私は今日まで生きてきました  
私は今日まで生きてきました  
そして今私は思っています  
明日からもこうして  
生きて行くだろうと

#### 6. この広い野原いっぱい (1967)

詞:小園江子子 曲:森山良子

この広い野原いっぱい 咲く花を  
ひとつ採らず あなたにあげる  
赤いポンの 花束にして

この広い夜空いっぱい 咲く星を  
ひとつ採らず あなたにあげる  
虹にかがやく ガラスにつめて

この広い海いっぱい 咲く船を  
ひとつ採らず あなたにあげる  
青い帆に インシヤルつけて

この広い世界中の なにもかも  
ひとつ採らず あなたにあげる  
だからわたしに 手紙を書いて  
手紙を書いて



#### 7. 戦争を知らない子供 (1970)

詞:北山 華 曲:杉田二郎

戦争が終わって 僕等は生れた  
戦争を知らずに 僕等は育った  
おとなになって 歩き始める  
平和の歌を くらすみながら

僕等の名前を 覚えてほしい  
戦争を知らない 子供たちさ

雨さがるからと 許されないなら  
星の毛が染いと 許されないなら  
今の私に 残っているのは  
涙をこらえて 歌うことだけさ

僕等の名前を 覚えてほしい  
戦争を知らない 子供たちさ

青空が好きで 花びらが好きで  
いつでも笑顔の すてきな人なら  
誰でも一緒に 歩いてゆこうよ  
きれいな夕日が 輝く小道を

僕等の名前を 覚えてほしい  
戦争を知らない 子供たちさ

#### 8. 翼をください (1971)

詞:山上麗夫 曲:井井邦彦

いま私の願いが  
叶うならば 翼がほしい  
この宙中に 鳥のように  
白い翼 つけてください

この大空に 翼をひろげ  
飛んで行きたいよ  
悲しみのない 自由な空へ  
翼はためかせ 行きたい

いま富とか名譽ならば  
いらなけれど 翼がほしい  
子供るとき 夢見たこと  
今も同じ夢に 見ている

この大空に 翼をひろげ  
飛んで行きたいよ  
悲しみのない 自由な空へ  
翼はためかせ 行きたい

この大空に 翼をひろげ  
飛んで行きたいよ  
悲しみのない 自由な空へ  
翼はためかせ 行きたい

この大空に 翼をひろげ  
飛んで行きたいよ  
悲しみのない 自由な空へ  
翼はためかせ 行きたい

#### 9. なごり雪 (1971)

詞:伊勢三

汽車を待つ君の横で僕は  
願をつけて 君は何か言おうとしている  
夢ははずれの雲が降って  
「東京で見る雲はこれが最後ね」と  
さみしそうに 君がつぶやく

なごり雪も 降る時を知り  
ふざけすぎた 季節のあとで  
今春が来て 君はきれいになった  
去年よりずっと きれいになった

動き始めた汽車の窓に  
願をつけて 君は何か言おうとしている  
君の口は「さようなら」と  
わくわくして 下をむいてた  
時が行けば 幼い君も  
大人になると 気づかないまま

今 春が来て 君はきれいになった  
去年よりずっと きれいになった

君が去った ホームにのこり  
落ちてはとける 雲を見ていた  
今 春が来て 君はきれいになった

去年よりずっと きれいになった  
去年よりずっと きれいになった

#### 10. 締めぐり (1974)

詞:山上麗夫 曲:山本輝太郎

あなたがいつか 睡してくれた  
時を僕は たずねて来た  
二人で行くと約束したが  
今ではそれも かなわないこと

締めぐりの バスは走る  
窓にひろがる 青い海よ  
悲しみ深く胸に沈めたら  
この旅終えて 街に帰ろう

締めぐりの バスは走る  
窓にひろがる 青い海よ  
悲しみ深く胸に沈めたら  
この旅終えて 街に帰ろう

締めぐりの バスは走る  
窓にひろがる 青い海よ  
悲しみ深く胸に沈めたら  
この旅終えて 街に帰ろう

締めぐりの バスは走る  
窓にひろがる 青い海よ  
悲しみ深く胸に沈めたら  
この旅終えて 街に帰ろう

締めぐりの バスは走る  
窓にひろがる 青い海よ  
悲しみ深く胸に沈めたら  
この旅終えて 街に帰ろう

締めぐりの バスは走る  
窓にひろがる 青い海よ  
悲しみ深く胸に沈めたら  
この旅終えて 街に帰ろう

締めぐりの バスは走る  
窓にひろがる 青い海よ  
悲しみ深く胸に沈めたら  
この旅終えて 街に帰ろう

締めぐりの バスは走る  
窓にひろがる 青い海よ  
悲しみ深く胸に沈めたら  
この旅終えて 街に帰ろう

締めぐりの バスは走る  
窓にひろがる 青い海よ  
悲しみ深く胸に沈めたら  
この旅終えて 街に帰ろう